

2025年度 町田市立町田第五小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和6年3月31日

学校教育目標 健康な子ども 考える子ども 助け合う子ども 進んでやる子ども	学校経営の重点 いじめの早期発見・早期対応・保護者との連携
<p>○目指す学校像・・・子どもたち一人一人の健康・安全・人権を大切に、子どもたち全員が毎日、笑顔で「行ってきます。」と言って家を出て笑顔で「ただいま。」と言って帰ることができる学校</p> <p>○目指す児童・生徒像・・・【健康な子ども】命を大切に。運動に親しむ。感染予防に気を付けながら規則正しい生活を送る。【考える子ども】よく見て聞いて考えて行動する。【新たなアイデアを生み出す。【助け合う子ども】相手を大切に、同年齢、異学年の人と協力して問題を解決する。【進んでやる子ども】自ら考え、判断して行動する。失敗を恐れずに前向きに挑戦する。</p> <p>○目指す教師像・・・子どもたち一人一人を大切に、教師、子どもたちの「心の声」を聴こうと努める教師</p>	<p>重点目標の成果と課題</p> <p>いじめの早期発見・早期対応については、毎月実施している「心のアンケート」や「Q-U調査」の全学年実施、保護者と連携した「子ども見守りシート」の取組等、確実に実施した。毎月開催したいじめ対応チームにおいて、「心のアンケート」を中心とした児童からの訴えについて協議し、対応方法を確認し、いじめ防止には断固たる決意で臨んだ。</p> <p>いじめの認知件数が2月末までで54件と、昨年度よりもおよそ半減しており大きな成果ではあるが、減少した理由はいじめ自体の減少なのか、心のアンケートが形骸化しているのか、教職員が自身の考えで有無を判断していない等の可能性も踏まえ、さらに強固な組織対応で取り組んでいく体制づくりを課題とする。</p>

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用する。	4 年間指導計画の80%以上の指導場面で実施	3.0	B	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上	90	A	地域と連携した教育活動に関して、90%と高い評価を得ている。ボランティアコーディネーターとの連携により多くの地域人材を活用することができた。	地域連携に関しては、ボランティアコーディネーターとの連携をさらに充実させ、各学年の学習内容に適切な人材の掘り起こしを行う。	ボランティアコーディネーターの負担がこれ以上増えないように、という声があるものの、地域との連携は伝統でもあり、今年度も高い評価を得た。個々の教員にも、地域ボランティアの活用積極的に取り組む姿勢が見える。地域の中の学校としてより充実した活動を期待する。学校公開の頻度をあげることに期待が大きい。コミュニケーションスクールとしては、学校運営協議会自身の広報活動に課題があり反省したい。	A	
				3 年間指導計画の70%以上の指導場面で実施			B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上							2 年間指導計画の60%以上の指導場面で実施
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	コミュニティスクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。	4 必要情報の80%以上を周知	4.0	A	A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上	83	A	また、情報発信に関しては、学校ホームページ等で教育活動の様子を発信することで、91%と高い評価を得られた。全教職員が児童や保護者に寄り添う姿勢を常に持つことを意識し、それに対する肯定的な意見も多く、96%という高い数値を得られた。	情報発信に関しては、肯定的評価が多いことから、現状の取組を継続するとともに、改善できる点についてはよりよい形を目指すようにする。学校公開も来年度は年間で10日以上計画し、保護者も教育活動に関われる機会を設ける。教育活動を教員と保護者、地域が協働して行えるように取り組む。			
				3 必要情報の75%以上を周知			B 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上							2 必要情報の70%以上を周知
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	学校により・学年により、ホームページの更新で保護者の安心できる情報を発信する。(スクールサポートスタッフを活用する。)	4 3月2回以上の更新	4.0	A	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上	91	A					
				3 月2回以上の更新			B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上							2 月1回以上の更新
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	保護者の気持ちに寄り添い、良好な人間関係のもとに、教育活動を積極的に公開する。	4 年10日以上以上の学校公開を実施	4.0	A	A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上	96	A					
				3 年7日以上以上の学校公開の実施			B 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上							2 年5日以上以上の学校公開の実施
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改善改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現すること、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子どもが「分かる できる つくる 楽しい授業」を展開する。	個に応じた指導を徹底し、つまづきを取り除き、知識・技能を定着させる。	4 80%以上の授業で意識して指導した	3.2	B	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 80%以上	84	A	授業をデザインする8つの取組が浸透してきているが純分ではない。基礎基本の定着が見られる一方で、自分の考えを発表したり主体的に学習に取り組んだりすることに課題がある。	8つの取組をそれぞれの教員が日々の授業の中で実践できるよう、チェックシートを活用する。児童が主体的に学ぶ時間を単元の中で意図的に設定する。対話の基盤となる関心力の育成。および、基礎基本の徹底を図る。基礎学力定着のために、家庭での協力を依頼する。	ICT機器の活用は量から質の時代に入っている。その点ではまだ改善の余地がある。発表の仕方などはその一つでもありそうだった。ただ、授業などの場面で活用するに適切な場で使ってもらえばいいと考えている。また、授業についていけない児童の存在を常に意識してほしい。そのため、教材研究を深めることを改善策として考える。	ICT機器の活用は量から質の時代に入っている。その点ではまだ改善の余地がある。発表の仕方などはその一つでもありそうだった。ただ、授業などの場面で活用するに適切な場で使ってもらえばいいと考えている。また、授業についていけない児童の存在を常に意識してほしい。そのため、教材研究を深めることを改善策として考える。	B
				3 70%以上の授業で意識して指導した			B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上							
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改善改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現すること、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子どもが「分かる できる つくる 楽しい授業」を展開する。	自分の考えを多様な方法で表現させ、協働学習(アクティブ・ラーニング)を導入する。	4 70%以上の授業で実施	3.0	B	A 児童アンケートで80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言	78	B	ICT機器の活用に関する結果の要因として、活用するが難しいかとの二極化がみられること、実践例の蓄積不足、学年、教科による差など、複合的なものが考えられる。				
				3 60%以上の授業で実施			B 児童アンケートで70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言							2 50%以上の授業で実施
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改善改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現すること、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。	主体的・対話的・深い学びを意識した授業改善を図る。	4 80%以上の授業で実施	3.1	B	A 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 85%以上	72	B					
				3 70%以上の授業で実施			B 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 70%以上							2 60%以上の授業で実施
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改善改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現すること、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。	プロジェクター、クロームの活用を推進し、めあてに応じてICTを活用できる力を育てる。	4 80%以上の授業で実施	2.8	C	A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 80以上	60	C					
				3 65%以上の授業で実施			B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICTの積極活用」肯定的評価 70以上							2 50%以上の授業で実施
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意識・意欲・態度を育てる。	生命を大切にしようとする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	人権を相互に尊重する姿勢を育て、いじめを絶対に見逃さない生活指導	4 いじめ防止の授業を月に1回以上指導実施	2.8	C	A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめや体罰防止」の取組 肯定的評価 80%以上	84	A	取組指標の「いじめ防止の授業」に直接する教科がないため、値が低くなる。この文言だと公開時に実施する授業のみが計上されるため、「学期に1回以上」という回答ができない。一方、日々の道徳の授業に関しては、自己の振り返りの時間の設定が、児童の学びの深まりや日々の実践に生かされていることがわかる。委員会、クラブ活動、異学年交流活動の回数が適切で、児童が全力で取り組めるよう配慮されている。取組指標の「安全教育的授業」にあたる授業はセーフティ教室、まちご防犯の日などがあり、これらをまとめた学期に2回以上と定めるはずだが、教員がそれを認識していなかったため、B評価になったと分析する。	人権尊重、いじめ防止に関する指導について、「いじめ防止に関連した授業」について指導内容を含めて頻度を評価するようにする。異学年交流の活動では、前もって担当教員と班長とで関わりをもつようにし、方向性の共有を図る。教師側からのフィードバックも行い、6年生児童の達成感につなげる。クラブ活動については、児童が自分たちで立ち上げに関われるようにする。安全教育については、年間計8回が全学年で実施されているので、教職員全体に周知を図る。	いじめ防止は授業だけでなく、過去の経緯もあって、熱心な取り組みは続いていっている。と評価できそう。とは言え、教員の見えないところで起きているのがいじめでもあり、よりアンテナを高くして取り組んでほしい。安全意識やネットマナーの指導も当然ではあるが、その背景にもなる自己肯定感を高める環境にも配慮をお願いしたい。	A	
				3 いじめ防止の授業を学期に2回以上指導実施			B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめや体罰防止」の取組 肯定的評価 70%以上							2 いじめ防止の授業を学期に1回以上指導実施
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意識・意欲・態度を育てる。	生命を大切にしようとする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	道徳科の授業では道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳的実践力を育てる。	4 すべての道徳授業で指導実施	3.6	A	A 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 80%以上	85	A					
				3 90%以上の道徳授業で指導実施			B 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 70%以上							2 80%以上の道徳授業で指導実施
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意識・意欲・態度を育てる。	生命を大切にしようとする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	子どもの主体的な活動を重視する。委員会、クラブ、異学年交流活動、実行委員会、かき活動など	4 80%以上の指導場面で実施	3.8	A	A Q-U、もしくは、児童アンケートでの満足評価 80%以上	85	A					
				3 70%以上の指導場面で実施			B Q-U、もしくは、児童アンケートでの満足評価 70%以上							2 60%以上の指導場面で実施
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意識・意欲・態度を育てる。	生命を大切にしようとする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。	交通安全防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成	4 安全教育的授業で月に1回以上指導実施	3.4	B	A 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 80%以上	78	B					
				3 安全教育的授業で学期に2回以上指導実施			B 学校評価アンケート「ウ」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 70%以上							2 安全教育的授業で学期に1回以上指導実施
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育朝会、体力向上旬間を実施し、運動の日常化を行う。	4 80%以上の授業で実施	3.0	B	A 80%以上の児童が課題項目で体力が向上	84	A	これまでの取組に一定の成果が見られることから、体力向上に関しては、体育委員会等を活用して運動習慣の日常化の取組を継続する。また、用具や学習カードなど、全校で取り組めるものなどの充実を図る。健康教育・食育に関しては、学校での学びを日々の実践に生かすことができている。	給食の食料変更のアプリを使った連絡なども含め、健康教育や食育はより家庭との連携が欠かせず、継続的に取り組んでいきたい。休み時間の運動習慣などの評価は高い。オリンピックレガシーを意識した刺激が大きい。アスリート派遣の実施やゲストティーチャーの活用など体験的活動の成果も確認できた。危機管理情報の管理や専門機関との連携等については、良好な数値が得られ、今後も継続し、機能の充実を図る。			
				3 70%以上の授業で実施			B 70%以上の児童が課題項目で体力が向上							
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	生活リズム定着週間を活用し、家庭と連携した健康教育と食育を推進する。	4 全ての指導場面で実施	3.0	B	A 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%未満	82	A					
				3 90%以上の指導場面で実施			B 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上							2 80%以上の指導場面で実施
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	オリンピックレガシー教育計画に基づき、共生の精神をくむための体験的活動を取り入れた学びを全校で実施する	4 月1回以上の体験活動を実施	3.0	B	A 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 80%以上	80	A					
				3 年間5回以上の体験活動の実施			B 学校評価アンケート「エ」①「進んで運動」肯定的評価 70%以上							2 年間3回以上の体験活動の実施
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	毎週金曜日に危機管理情報を共有し、専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め指導充実を図る。	4 80%以上の指導場面で実施	4.0	A	A 生活指導夕会の実施率 90%以上	100	A					
				3 70%以上の指導場面で実施			B 生活指導夕会の実施率 80%以上							2 60%以上の指導場面で実施
その他														

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)

取組指標平均 3.5以上	⇒ 評価A
取組指標平均 3以上3.5未満	⇒ 評価B
取組指標平均 2以上3未満	⇒ 評価C
取組指標平均 2未満	⇒ 評価D

成果指標評価基準

成果指標平均 80%以上	⇒ 評価A
成果指標平均 70%以上	⇒ 評価B
成果指標平均 55%以上	⇒ 評価C
成果指標平均 55%未満	⇒ 評価D

学校関係者評価の評価基準例

A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる
B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。